令和７年度「ストップいじめ なら子どもサミット」

奈良市教育委員会事務局
いじめ防止生徒指導課

令和８年１月７日（水）午後１時30分より、令和７年度「ストップいじめ　なら子どもサミット」をオンラインにて開催しました。９回目の開催となる今年度は、「高めよう！いじめへのアンテナ」～今、私たちにできること～　をテーマとし、「いじめを許さない学校づくり」の実現に向けた意見や取組を交流し、子どもたち自らが主体的にいじめの防止について考え合いました。

〇開会の挨拶と激励のメッセージ

はじめに、青和小学校の代表児童が開会の挨拶を行いました。

挨拶では、「今回のテーマは、『高めよう！いじめへのアンテナ～今、私たちにできること～』です。日頃、たくさんの人と関わる中で、私たちの「いじめに対するアンテナ」は、どれだけ働いているでしょうか。また、「これは、いじめである」と感じたとき、何か行動を起こすことはできているでしょうか。「いじめである」という感覚は、人それぞれであり、行動を起こせるかどうかは、環境や仲間づくりと大きく関わってくることだと思います。今回のサミットでは、いじめに対する感覚のズレに気づき、いじめに対してどのように向き合っていくのかを考えていきます。また、いじめを起こさない環境づくりや、誰かが傷ついているときに、手を差し伸べられる、声を発せられる、行動できる、そんな雰囲気づくりについて考えていきます。このサミットに参加する小学生、中学生、高校生、参加している先生、全員が「いじめをなくすためには、どのような対策ができるのかを考え、すべての人が安心して学校生活を送れるようにする」という同じ目標を持っています。この目標を達成するために、いじめについて深く交流していきましょう。そして、奈良市の全ての人が安心して学校生活を送れるように、今日このサミットに参加しているメンバー全員が積極的に意見を出し合い、いじめのない環境を本気でつくっていきましょう。」と伝えてくれました。

次に、仲川げん奈良市長より、「いじめをなくす学校をどのように作っていけばいいか。学校の先生や保護者の方のサポートももちろん必要ですが、学校で起きていることについては生徒の皆さん方が一番よく知っていると思います。今はインターネットやスマホ、タブレットもあり、色々な技術も変化してきており、今の学校で起きている問題に詳しい皆さんが、当事者の視点で解決策を考えていくということは、すごく有効だと思っています。今の奈良市内でも、学校ごと、あるいはクラスごとに色々な課題があると思います。楽しいことだけではなくて、色々な難しい問題に直面することもあるかと思いますが、そういった時に皆さんが自分たちで考え、行動していく

ということはすごく大事だろうと思います。自分たちの環境、自分たちの街をよくしていくのは自分たち自身なんだ、皆さんにそんな風に感じてくれると嬉しいなと思っています。市の方でも教育委員会と連携して、皆さんが学校生活をより快適で、より安心して毎日通うことができるように応援していきたいと思っておりますので、ぜひ積極的な参加をお願いしたいと思います。今日はぜひ頑張ってください。」と激励のメッセージをいただきました。

○グループセッション①

グループセッション①では参加校を５つのグループに分けて、市立学校で行ったいじめに関する事前アンケートの結果を基に、問題点はどのような点にあるのか議論をしました。

グループセッション①の様子

○グループセッション②

グループセッション②では、グループセッション①で明らかになった問題点に着目し、いじめを防ぐために各学校でできる具体的な取組について議論しました。

グループセッション②の様子

○全体会

全体会では、事前アンケートからどのような問題点に着目し、どのような取組を行っていくとよいか、ということについて、各グループから発表がありました。

事前アンケートの結果から、いじめの定義や基準、周りにどれくらいいじめがあるのかといったことについて「わからない」と感じている人が多いのではないか、という意見や、いじめに対する関心が低い人が多いのではないか、いじめを止めることができない雰囲気があることが問題であるといった意見など、様々な視点から問題点が出されました。

具体的な取組としては、ポスターや掲示物を通じて、いじめの定義や望ましい言動を全校に啓発し共通認識を図る案、相談箱の設置や匿名アンケートの実施といった「相談しやすい仕組み」の導入、感謝の手紙や「いいところ見つけ」などの活動を通じて温かい集団の雰囲気を作る、といった意見が出てきました。また、ビデオ視聴や劇を通じて「当事者意識」を育む取組や、生徒会主導の話し合い、あいさつ運動など、学年を超えた良好なコミュニケーションの場を作るための提案もなされまし

た。

こうした個別の活動にとどまらず、サミットでの対話を踏まえた発展的な意見として、参加校全体で共通して実行する取組を一つ決めてはどうか、といった具体的なアクションを促す提案も出されました。

〇スタンドバイ株式会社　谷山　大三郎さん　からの講評

最後にスタンドバイ株式会社　谷山　大三郎さんから講評をいただきました。

「各グループ、私から３つ、素朴に感じた感想、感動したことを３つお伝えしたいと思います。１つ目は、皆さんプレゼンテーションが素晴らしかったことです。プレゼンテーションは、聞いた相手がどう変わるかが大切であると私は考えています。私は皆さんの発表を聞いて心が動いて変わりました。教育委員会の皆さんからも、「すごく素晴らしかった」という声がたくさん飛び交っています。皆さんはこの２時間で人を変えたっていうことは、ぜひ自信を持って欲しいと思っています。もちろん対話する中で、チームメンバーも変わっていったと思います。

２つ目は、関心を持つことがスタートなんだということです。いじめに限らず、いろいろな社会課題がありますが、まず「わからない」というところや、認識にずれがあることが最初のスタートなんだと感じました。皆さんのアイデアで、ポスターとか、みんなで学ぶとか、まずは関心を持ってもらうことが大事なんだなということを感じました。「ダメなことを減らす」だけではなくて「よいことを増やす」ことで、いじめを減らすっていう発想が素晴らしいなあと思いました。手紙を書いて、きちんと相手の素晴らしかったことや感謝を伝える、皆さんの発想の中の「一人一人が幸せになっていけば傷つける行為が減る」という、その発想自体が私にとっては新しく、素晴らしいなって感じました。

３つ目が、私はスタンドバイという仕組みを作っていますが、皆さんの議論の中に「どうやって相談するか」ではなくて「誰に相談が届くのかが気になるとか」という話がたくさんあったと思います。それも私に無い発想で、「環境を生かす人ってどういう人なんだろう」とか、その先を超えて皆さん議論していたなというところがすごく勉強になりましたし、すごく学びになりました。

最後に、ぜひ皆さんへの期待することは、「100 のアイデアよりも、１の行動に価値がある」ということです。１の行動が、皆さんの中での周りの人を救えたりとか、幸せにしたりとか、奈良市を変えていくということにつながっていくと思います。１の行動は、そんなに大きいものでなくていいと思います。学校の中でもできることもたくさんあると思います。また、最後に「一つ何かやりましょう」という意見も出ていました。ぜひ皆さんに期待を込めて、一つ何か成し遂げてくれたらすごく嬉しいなあと思います。」という講評をいただきました。

〇終わりに

閉会にあたり、春日中学校の代表生徒が挨拶をしてくれました。

「今日、この会場で小学校、中学校・高校の垣根を越えて、真剣にいじめという問題に向き合えたことを嬉しく思います。 各グループの発表を聞き、いじめかいじめじゃないかの基準や、各学校違うことやいじめをなくす取組をみんなでやりやすいようにしていることを学び、私たちの学校生活をより良くするためのヒントが、たくさん散りばめられていたと感じました。特に印象的だったのは、議論の中での姿勢です。最初は緊張していた姿が皆さん後半になっていくにつれて緊張が解けたような顔で臨んでいき、その姿はとても素晴らしいと僕は思いました。一方的な発表ではなく、『対話』が生まれていたのではないでしょうか。今回の会議を通じて、私たちは、どこからがいじめなのか、どこまでがいじめじゃないのか、や各学校特有のいじめに対する防止策の共有など多角的な視点を持つことができました。各学校の柔軟なアイデアと、経験に基づいた意見が混ざり合い、これまでにない新しい解決の糸口が見えたような気がします。しかし、大切なのは今日ここで終わらせないことです。ここで出た意見や決意を、明日からの学校生活にどう落とし込んでいくかが問われています。今日感じたいじめの問題に向き合う難しさやその上でひとりひとりを尊重しいじめをなくしていくことの大切さを、今度は皆さんの各学校の仲間に伝えていってください。

最後になりますが、今日一緒に考えてくれた皆さん、本当にありがとうございました。 私たちの手で、誰もが『学校に来るのが楽しい！』と思えるような、いじめのない明るい学校を一緒に作っていきましょう。」と決意を語ってくれました。

今年度も小学校、中学校、高等学校の児童生徒が参加し、異校種間での意見交流ができました。児童生徒たちはそれぞれの立場から積極的に意見発表を行い、いじめをなくすために真剣に考えてくれたと思います。サミットで話し合ったことや学んだこと、意見交流で考えたことなどをもとに、各校学校に合った取組や活動を進めてくれることを期待しています。